

美濃部達吉『憲法講話』を 輪読する (全5回)

事前
申込制

本セミナーは、『憲法講話』を輪読する。同書は、憲法・行政法学者である美濃部達吉(1873～1948)が、「健全なる立憲思想」の普及を目指して、国家法人説の見地から明治憲法について一般読者へ向けて体系的に講義した書である(初版1912年、改訂版1918年)。同書は明治憲法時代の著作ながら、平易な文章で語られているのみならず、現代の憲法理解に通じる重要な指摘が多くみられる。その他、日本の社会福祉制度の歴史を考える際に、明治憲法下の法制度に関する知識も必要とされるところ、その点について理解を深めることも期待できるなど、紐解く者の多角的な興味関心に応ずるものと思われる。

日時

- 第1回 2025年 6月27日(金) 18:00～20:00
 第2回 2025年 7月25日(金) 18:00～20:00
 第3回 2025年 9月26日(金) 18:00～20:00
 第4回 2025年10月24日(金) 18:00～20:00
 第5回 2025年11月28日(金) 18:00～20:00

対象

学生、教職員、一般

受講料

学生 1,000円、一般・教職員 3,000円(全5回分)

講師

神橋 一彦
立教大学法学部教授、立教大学社会福祉研究所副所長
 一ノ瀬 佳也
立教大学法学部兼任講師、立教大学社会福祉研究所特任研究員

開催

ハイブリッド開催
 (池袋キャンパス12号館 第1・2会議室 [第2回のみ太刀川記念館 第1、2会議室]+Zoom)

申込

定員30名
 申込はこちら ⇒
 申込締切
 6/11(水) 正午



憲法講話

美濃部達吉著



憲法学者・美濃部達吉(1873-1948)が、「健全なる立憲思想」の普及を目指して、明治憲法を一般読者へ向けて体系的に講義した書(初版1912年)。

天皇は法人たる国家の最高機関であるとする天皇機関説を打ち出した本書は、天皇主権説論者との論争を呼び起こした。のちに国禁とされた美濃部学説の原点を知る上でも重要な著作である。1918年の改訂版を収録。(解説・高見勝利)



白 32-1
 岩波文庫

問い合わせは

立教大学社会福祉研究所 事務局 r-fukshi@rikkyo.ac.jp

講師プロフィール

神橋 一彦(カンバシカズヒコ)

立教大学法学部教授、立教大学社会福祉研究所副所長

1964年生まれ。1994年、東北大学大学院法学研究科博士課程修了・博士(法学)。金沢大学法学部助教授を経て、2004年より現職。専攻・行政法。

一ノ瀬 佳也(イチノセ ヨシヤ)

立教大学法学部兼任講師、立教大学社会福祉研究所特任研究員

博士(法学)。千葉大学大学院人文社会科学研究科においてCOEフェローや特任教員を務めた後、立教大学法学部助教・特任准教授を経て、現在は兼任講師を務める。専門は、政治思想史、経済思想史、公共哲学、政治哲学と多岐に及ぶ。

各回の内容

◆第1回

第一講 国家および政体(19～61頁)

第二講(上) 帝国の政体(62～77頁)

第八講(下) 法(409～432頁)

◆第2回

第二講(下) 天皇(その一)(78～111頁)

第三講(上) 天皇(その二)(112～131頁)

第三講(下) 国務大臣および枢密顧問(132～158頁)

第四講 帝国議会(その一)(159～210頁)

◆第3回

第五講 帝国議会(その二)(211～282頁)

第六講 行政組織(283～322頁)

◆第4回

第七講 行政作用(323～371頁)

第八講(上) 司法(372～408頁)

◆第5回

第九講(上) 制定法の各種(433～472頁)

第九講(下) 国民の権利義務(473～493頁)

第十講 帝国植民地(494～530頁)